



▲佐賀南橋を境に上流部は、散策路が整備され、水辺にジュズダマやアヤメ類が見られる。



▲一方、下流の岐阜市は、水辺に近づくこともできない。まちづくりの教訓としたい。



▲眉山を背景に黒木橋を走るぐるとバスが川面に映る。堤には彼岸花が咲き誇る。

公園がほとんどないため、鳥羽川の本流に、都市居住の環境を向上させるような公園敷の整備が望まれます。



▲もとより防災が最重要課題である一方、都市河川として環境向上が望まれる。水辺に近づくこともできず、眺めるだけのいびつな環境は、むしろストレスを生み、愛着がわきにくい。



▲常磐地区「戸石川水辺の楽校」では、子供たちが川遊びを体験したり、地域の交流の場として地域が活用している。

【現況・課題と解決の方向性(案)】

51年水害を機に鳥羽川改修工事が行われ水害被害の心配は軽減されました。一方、親水性は皆無と言ってよいでしょう。工事から数十年を経過した今も、市内随一の蛍の名所は未だ復活していませんが近年、飛翔の兆しが見られます。

鳥羽川からの水路の新川は、山県市境の佐賀南橋をはさんで、上流はコミュニティ水路的な整備がされ、遊歩道が楽しめるものの、下流の岐阜市は草に覆われ踏み込むこともできません。平成15年当時、県の公共工事として改修された模様。

一方、鳥羽川の本川についての活用が地域全体として強く求められてきました。流量を損なわず、治水を妨げないような設計のもとに、都市河川としてのアーバンデザインを高め、居住環境を向上させ、地域ぐるみで有効利用できる公園敷整備が検討できないものでしょうか。

まずは、岩野田北、岩野田小及び岩野田中学から最短距離の地点に、親水広場(常磐地区の水辺の楽校のような整備目的を参考)を整備し、環境学習や公園として整備の検討について、行政に協働研究を求めたいですね。将来的には、市の魅力向上と健康づくりに資する、長良川からのサイクリング道整備も提案したいところです。

一方、地域では、アダプト・プログラムを活用して、美化活動、野趣あふれる草花の植栽活動を実施するとともに、環境学習を主催し、ホタル情報を発信することも検討することが必要と思われます。